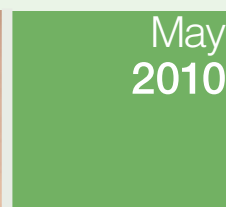


NewSophia No.2

福岡歯科学園広報誌 | ニューソフィア |

vol.19 [66号]

福岡歯科大学は「口腔医学の確立」を推進しています



contents

page

平成22年度入学式／学生納付金引き下げ	2
歯科医師国家試験・歯科衛生士国家試験結果／ 総合型実技教育実習室の新設	3
平成22年度新入生研修会	4・5
慶熙大・上海交通大学との国際交流／ ブリティッシュコロンビア大学歯学部と協定を締結	6
平成21年度卒業式・表彰者紹介／定年退職を迎えて	7
FROM THE ALUMNI ASSOCIATION 同窓会だより	8
HI.FROM CLINICS クリニックからこんにちは	9
FROM PARENTS 保護者からのメッセージ／新役職教員・短大学科長	10
新任・昇任教員紹介	11
平成23年度入試日程／オープンキャンパス案内	12

福岡歯科学園

ホームページもご覧ください。

<http://www.fdcnet.ac.jp>

平成22年度入学式

夢と希望を持って、福岡歯科大学へ



福岡歯科大学歯学部・大学院の平成22年度入学式が4月2日、来賓ならびに家族の列席のもと福岡歯科大学本館講堂で挙行されました。

緊張の面持ちの78人の歯学部新入生に北村憲司大学長は、「歯科医療を取り巻く厳しい環境の中、本学で歯科医師を目指す決心をされた新入生の皆さんに心から敬意を表しますと共に、今日の決意を忘れずに学の研鑽に励んでいただきたいと思います。歯科医療は単に歯の病気を治すために必要なのではなく、歯や

口腔によってもたらされる豊かな表現、社会活動を円滑に行うために必要なものです。「口腔医学」という、福岡歯科大学の次の十年を見据えた新しい教育を受け、次代の国民の健康を守ることに、常に心を砕きながら、本学での学びの6年を過ごされることを切に希望します。」と期待を述べました。

16人の大学院入学生に対しては、「歯科医療が生命科学の一分野として広がっていくためには、科学的思考に口腔医学としての再編



が必要であり、その再編は皆さんの創造性と哲学性に掛かっています。新しい口腔医学の担い手として臨床と研究を結ぶ“洞察力を持った歯科医師”として大きく成長され、日本の、世界のリーダーとして、新しい時代を先導してくださることを大いに期待します。」と式辞で述べました。

新しい気持ちでスタート、福岡医療短大



福岡医療短期大学の平成22年度入学式が、キャンパスに桜が咲き誇る4月7日、福岡歯科大学本館講堂で執り行われました。式辞の中で栢豪洋短大学長は「本学は、他大学にはない

特色として、キャンパス内に介護老人保健施設と特別養護老人ホームの施設を設置しており、そこで介護のできる歯科衛生士、口腔ケアもできる介護福祉士の養成に力を注いでいます。将来、皆さんは、知識や技術の習得だけでなく、口腔ケアに必要な患者さんや介護の必要なお年寄りに優しい心で接して支えることができる歯科衛生士や介護福祉士になっていただきたい。また専攻科に入学の皆さんは、口腔保健学を学び、これから更に口腔ケアの高度な知識や技術を身につけて、日本の歯科衛生士

のレベルを更に引き上げていただきたい。」と述べ、希望に胸をふくらませた133人（歯科衛生学科93人、保健福祉学科30人、専攻科10人）の新入生にエールを送りました。



平成23年度入学生より初年度学生納付金を160万円引き下げ

厳しい社会経済状況や私立歯科大学・学部の志願者が急激に減少する中で、今後、本学が持続的発展を遂げ、社会の要請に応える有為の人材の確保・育成競争に打ち勝つため、平成23年度入学生より学生納付金を次のとおり改定します。これにより、初年度学生納付金が160万円引き下げられます。

区分	初年度学生納付金		毎年度学生納付金（年額）		初年度計	6年間計
	入学金	教育充実資金	授業料	施設維持費		
現状	600,000	6,000,000	3,800,000	500,000	10,900,000	32,400,000
平成23年度入学生より適用	600,000	4,400,000	3,500,000	800,000	9,300,000	30,800,000

2年連続 好成績!

歯科医師国家試験

合格率17私大中 第2位

3月29日、厚生労働省から第103回歯科医師国家試験の結果が発表されました。全国の受験者3,465人中、合格者は2,408人、合格率は69.5%でした。福岡歯科大学からは新卒者100人及び既卒者28人、計128人が受験し、103人が合格しました。合格率は80.5%で、私立歯科大学17校中第2位という素晴らしい結果を収めました。昨年度も合格率76.0%、私立歯科大学中5位という成績で2年連続好成績を収めることができました。

今回は合格判定に大きな変化がありました。必修問題はそのままの判定法でしたが、従来の一般問題と臨床実地問題を分けて基準点を設定する方法から、領域別に基準点を設定する方法へと変更されました。このような変更は誰も予測できなかったことでしたが、本学の学生はそうした事に動じることなく普段の授業で培われた応用力を見事に発揮することができました。

	平成21年度		平成20年度	
	合格率(順位)	新卒合格率(順位)	合格率(順位)	新卒合格率(順位)
福岡歯科大学	80.5%(2位)	84.0%(4位)	76.0%(5位)	88.9%(1位)
全国平均	69.5%	81.6%	67.5%	76.1%

この好成績をお祝いして田中理事長から紅白饅頭が学園役員・教職員及び臨床研修歯科医等に振舞われました。

歯科衛生士国家試験

合格率100%

3月25日、厚生労働省から第19回歯科衛生士国家試験の結果が発表されました。福岡医療短期大学歯科衛生学科からは卒業生ら78人(既卒者3人を含む)が受験し、合格者は78人、合格率は100%でした。ちなみに全国の合格率は97.2%でした。

昨年度は国家試験対策として、過去の国試問題から出題する演習試験を隔週で全15回行い、成績不振な学生に対して水曜放課後と土曜日に補習を行いました。また、演習試験・模擬試験の成績不振者には冬期休暇中に補習を実施しました。このような国家試験対策と学生の努力により達成できました。

教育施設・設備を充実

統合型実技教育実習室の新設

平成22年2・3月に、402実習室を改修して統合型実技教育実習室および示説室を新設し、铸造・重合室の一部を改修しました。

統合型実技教育実習室には、PCを装備したマルチメディア対応の実習机を整備しています。主に3,4年生が使用し、治療の流れを理解し、それまでに得た知識を生かした診察・検査・診断実習、医療面接等の態度実習を統合した臨床基礎実習を行います。実習説明内容をデジタルアーカイブ化し、ビジュアル化したe-learningシステムを導入し、PCを活用し個々のニーズに合った学習環境で、学生が自分の進度に合わせて実習を進める学習者中心の問題解決能力養成型の統合型実技教育システムを構築しています。また、隣接する示説室ではグループ別実習指導を行うことができ、さらに铸造・重合室での技工操作なども含めて、実際の臨床の流れに沿った診療・技工実習を行うことができます。

なお、本事業の一部は、平成21年度文部科学省「教育装置の整備に係る助成」、「ICT推進活用事業助成」、「教育基盤設備助成」による補助により行われました。



本館・研究棟の耐震工事完了

昨年から行われていた本館及び医科歯科総合病院のうち研究棟(総合歯科等の臨床系研究室等が配置されている部分)の耐震補強工事が3月に完了しました。補強工事の完了により両建物は、キャンパス内にある他の建物と同様、震度6強の地震に耐えうる構造となり、学生等の安全確保だけでなく、大規模災害発生時における地域の防災拠点としての役割も果たすことになります。



完成した研究棟



完成した本館

エコなトイレ環境を実現

耐震工事と並行して進められていた本館及び研究棟のトイレ改修工事も予定どおり3月に完了し、明るく清潔で、地球環境に優しい節水型エコトイレが整備されました。



耐震エレベーターを設置

建物の耐震化と共にエレベーターの安全性を確保するため、本館及び研究棟は耐震性能を備えたエレベーターにリニューアルしており地震発生時には最寄り階に停止して利用者の生命を守ります。

眼科開設

福岡歯科大学では、口腔疾患を全身と関連づけて診ることができる歯科医師を養成するため「口腔医学の確立」を目指した特色ある教育、診療を行っています。この方針に基づき、歯科だけでなく内科や外科を始めとする隣接医学の充実にも重点的に取り組んできましたが、本年4月から新たに「眼科」を開設し、病院拡充を図りました。

眼科では白内障や緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性といったいわゆる眼球内の疾患ばかりでなく、眼瞼下垂や鼻涙管閉塞による流涙症など、眼科全般の診療を行います。

苦痛が少なく質の高い医療を提供するなかで、患者さんのQOLの維持に貢献したいと考えます。



畑快右眼科長(後方中央)とスタッフ

福岡歯科大学新入生 研修会

4月9日、10日の2日間、平成22年度新入生研修会が国立阿蘇青少年交流の家で実施され、理事長・学長講話、『現代文明論』講義、阿蘇登山や禅寺での講話・座禅などが行われ、新入生同士や助言教員との親睦を図り、これからの6年間、学業や学生生活を共に過ごす仲間との思い出となる研修会でした。



福岡医療短期大学新入生 研 修 会

4月16日、17日の2日間、平成22年度新入生研修会が国立阿蘇青少年交流の家で行われ、歯科衛生学科と保健福祉学科はそれぞれに、大観峰見学やレクリエーションで新入生同士や上級生、教員との親睦を深めました。

歯科衛生学科



保健福祉学科



慶熙大と国際交流

生体構造学講座 病態構造学分野 教授 谷口邦久

姉妹校である慶熙大（ソウル、4年制）の学生5人（2年生と3年生）が申教授と崔准教授の引率で来校し、2010年1月12日～22日の約2週間、本学で国際交流研修プログラムを受講しました。初日には大学主催の歓迎会が催され、研修期間中は主に大学附属の医科歯科総合病院で臨床研修を行うとともに、基礎や臨床の先生方による6つの特別講義が行われました。慶熙大の学生は大変興味を持って聴講し、活発な質疑応答を行うなど学習意欲の高さが印象的でした。また、学生達の礼儀正しい紳士的な態度に診療スタッフの評判も上々でした。放課後には昨年慶熙大で研

修を行った大学院生達や学部学生達との交流も盛り上がり友好を深めていました。日曜日には阿蘇山や熊本城などの観光を楽しみ、日本の風土や文化に親しみました。送別会では北村大学長より研修修了証が手渡され、皆で再会を誓い名残を惜しんでいました。今回の研修に合わせて、引率の先生方によるFD研修も行われ、慶熙大の教育システムやカリキュラム、卒後研修の特色に

ついて貴重な講演を聞くことができ、有意義な相互国際交流となりました。関係の教職員の方々に御世話を頂き無事終了することができました。



阿蘇観光



口臭測定を体験

本学5年生が友好交流のため上海交通大学口腔医学院を訪問

咬合修復学講座 口腔インプラント学分野 教授 松浦正朗

3月21日から28日までの8日間、5年生の陶山太輝、瀬野恵衣、谷口祐介、橋本明恵、町田李菜、吉村周作、引率として久永豊、松浦正朗の計8名が上海交通大学口腔医学院を訪問しました。22日は張志願院長と対面し、夜は、たまたま上

海交通大学を訪れていた日本歯科医学会の江藤一洋会長も同席され盛大な歓迎会が開かれました。23日は久永、松浦が上海の学生に講義をし、24日から26日の期間、学生は3班に分かれ、4月に来日する上海の学生の引率で病院での診療見学を行いました。さらに病院研修以外にも雑技団の見学、上海交響楽団のピアノとバイオリンのコンチェルト鑑賞、黄浦江クルーズ、新天地散策、水郷の周庄1日ツアーなど盛り沢山の研修となり、学生にとってはアツと言う間の8日間であったと思います。学生たちには今後の人生に大きな影響を持つ経験であり、この機会を下さった田中理事長先生、北村大学長、そして

熱烈かつ親身になってお世話くださった張建中副院長に衷心からの感謝を捧げます。



本学学生と上海交通大学学生の記念写真
(上海環球金融センタービル展望室)



3月22日の張志願院長との対面式の模様

ブリティッシュコロンビア大学(UBC)歯学部と協定を締結

福岡歯科大学は、2010年2月、ブリティッシュコロンビア大学(UBC)歯学部(カナダバンクーバー)との間に提携に関する協定を結びました。これまで田中健蔵理事長、北村憲司大学長はじめ数名の教職員がUBCを訪問し、UBC歯学部のシュラー学部長らと協議を重ねてきましたが、協定の締結により協力関係が更に発展するものと期待されています。この協定によって本学は、米国南カリフォルニア大学歯学部に続いて2つ目の提携校を北米

に持つこととなりました。

UBCはカナダ屈指の総合大学の一つであり、医学、経済学、自然科学、芸術、教育学、社会学、人類学などの分野で世界的にも高い評価を得ています。今後、UBCとの間に結ばれた本協定により、①教職員と学生の相互訪問による教育面での協力、②共通の研究プロジェクトでの協力、③教育・研究面での情報交換、④学術会議・技術会議・国内会議・国際会議への相互招待など、各方面における活発な交

流が期待されています。現在、本学の臨床実習生を1～2週間にわたって派遣する計画でUBCとの間で調整を進めています。



協定書

海外研修派遣

<平成21年度>

所属分野	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
内科	教授	大星博明	①国際脳卒中学会(サンアントニオ)にて口演発表 ②UCSF大学にて神経学講座MA Yenari准教授と脳卒中についての研究打合せ	サンフランシスコサンアントニオ(アメリカ)	自:H.22. 2.20 至:H.22. 2.28
冠橋義歯学	助教	片渕三千綱	Academy of Osseointegration Annual Meetingにて共同演者としてポスター発表	フロリダ・オーランド(アメリカ)	自:H.22. 3. 2 至:H.22. 3. 9
冠橋義歯学	教授	佐藤博信	Academy of Osseointegration Annual Meetingにて共同演者としてポスター発表	オーランド・ニューヨーク(アメリカ)	自:H.22. 3. 3 至:H.22. 3. 9
口腔インプラント学	准教授 大学院生	城戸寛史 入江昭仁	①Academy of Osseointegration Annual Meetingにてポスター発表 ②NYUIにてBiomet 3i社と共同研究の打合せ	オーランド・ニューヨーク(アメリカ)	自:H.22. 3. 3 至:H.22. 3. 9
矯正歯科学	准教授	久永豊	上海交通大学への派遣学生(6名)の引率及び今後の学術交流の協議	上海(中国)	自:H.22. 3.21 至:H.22. 3.28
口腔インプラント学	教授	松浦正朗	上海交通大学への派遣学生(6名)の引率及び今後の学術交流の協議	上海(中国)	自:H.22. 3.22 至:H.22. 3.28

<平成22年度>

所属分野	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
機能構造学	助教	岡 暁子	Gordon Research Conferences Craniofacial Morphogenesis & Tissue Regenerationでの発表	ルッカ(イタリア)	自:H.22. 4.10 至:H.22. 4.17

第32回福岡歯科大学卒業式・第22回大学院修了式

福岡歯科大学の第32回卒業式並びに〔表彰者〕

第22回大学院修了式が、3月20日本館講堂で執り行われ、北村憲司大学長より歯学部卒業生100人に卒業証書・学位記が手渡され、大学院修了生7人には博士(歯学)の学位記が授与されました。

学業成績優秀者

村上千尋【理事長賞】
笹倉彩【学長賞】
五島有樹恵【学長賞】

学生会功労者

高田俊輔【総務委員長】
有田光太郎【体育部会長】
小松俊也【学術文化部会長】
錦戸浩【学園祭実行委員長】
福岡佑【体育祭実行委員長】



【学位論文紹介】

【学位授与日:平成22年3月20日】

甲 第209号 松本典祥	ラット根尖病変創傷治癒に及ぼすEmdogain®gelの効果の解明
甲 第210号 畑実	Expression of podoplanin in the mouse salivary glands (マウス唾液腺におけるポドプランリンの発現)
甲 第211号 井上知加予	自己組織化マップによる骨格性下顎前突患者の軟組織側貌パターンの抽出
甲 第212号 長谷川綾	Changes in lip and cheek pressure due to simulated maxillary dental arch expansion (模擬的上顎歯列弓の拡大による口唇圧および頬圧の変化)
甲 第213号 向坊友宏	スライディングメカニクスにおける牽引方法の違いが切歯動態に及ぼす影響 摩擦抵抗値の測定と光弾性応力解析
甲 第214号 白石朋子	Evaluation of T2 values and apparent diffusion coefficient of the masseter muscle by clenching. (噛みしめによる咬筋のT2値とみかけの拡散係数の変化の評価)
甲 第215号 岩澤佳奈	リンパ管内皮細胞におけるTNF- α , LTAおよびLPSによる白血球接着因子の発現誘導に関する研究

【学位授与日:平成22年3月31日】

乙 第80号 野上堅太郎	$\alpha 2$ -agonistの全身投与および局所麻酔薬への添加が局所麻酔効果および局所血流量に及ぼす影響
-----------------	---



大学院修了生

第12回福岡医療短期大学卒業式・第11回専攻科修了式

福岡医療短期大学の第12回卒業式が3月11日福岡歯科大学本館講堂で執り行われました。歯科衛生学科75人、保健福祉学科24人の卒業生に対し栢豪洋短大学長より卒業証書が手渡され、専攻科口腔保健衛生学専攻の16人には修了証書が授与されました。なお、専攻科修了の15人は、独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める学修成果・試験の審査に合格し、「学士(口腔保健学)」の学位記も併せて伝達されました。

〔学業成績優秀による表彰者〕

歯科衛生学科

吉永綾子【理事長賞】
高島朋子【短大学長賞】
佐藤由香里【短大学長賞】

保健福祉学科

河野智子【理事長賞】
藤雪絵【短大学長賞】

専攻科学位取得者

井澤舞 甲木裕理 實光彩 松田浅美
伊藤仁美 金子睦 塚本葉子 松本亜矢子
犬丸祐里 近藤悠美 富永美妃 村串愛
加塩奈津希 齊藤里香 前田豊美



・・・定年退職を迎えて・・・

平成22年3月、定年退職されたお二人からのメッセージです。



成育小児歯科学分野 教授 本川 渉

私は昭和48年5月に当時吉田名誉教授が主宰されていた小児歯科学教室に助手として入局しました。丁度1か月前に本学が開校したばかりの時、1期生が入学した年です。それから早いもので約37年が過ぎました。まさに光陰矢の如しです。本当にこれまで長年本学に奉職出来たことを心から感謝しています。

吉田教授の下、教室作りと一期生の講義や実習、それに当時は「虫歯の洪水」といわれる時代で、多くの患者がランパントカリエスのケースでしたので、診療に追われる毎日でした。とりわけ一期生は学生数が二百数十名と多く、小児歯科の基礎実習や臨床実習は大変でした。

クラブ関係では、1期生が作ったカントリーアンドウェスタンの顧問や弓道部や柔道部の部長を、また陶芸部を学生さんと共に作りました。これまで学生さんとの楽しい思い出がたくさんあります。

正直言って、当初はこんなに長く勤務できるとは考えていませんでした。本学に長年勤務できた上に、恩師である吉田教授の後任教授として小児歯科学教室を主宰する幸運にも恵まれましたし、教室にはすばらしい卒業生が沢山残ってくれました。また、これまで多くの学生さんとも交流ができました。平成15年から4年間病院長をさせてもらい、いろんな経験をさせていただきました。さらに、この定年の年にも病院長の大役を仰せつかりましたことを、田中健蔵理事長はじめ皆様に感謝申し上げるとともに、微力ながら少しでも大学の発展に貢献できたのであれば本当に光栄に存じます。これまで皆様方からいただいたご芳情に心より感謝するとともに、これからの本学の更なる発展を祈念申し上げます。



分子機能制御学分野
准教授 真田 正幸

昭和49年3月1日に本学の生物学研究室に助手として赴任して以来、基礎生物学や細胞生物学や細胞分子生物学実習を担当してきました。

私が赴任した頃は田んぼの中に病院棟だけが建っているような状況でした。その後、本館やアニマルセンターや体育館ができ、更には短大も開設され、本学は立派になったと思います。このような環境の中で歯科教育に関われたことを感謝しております。

36年間大変お世話になりました。皆様方のご活躍、福岡歯科大学の更なる発展を祈念します。

From The Alumni Association

福岡歯科大学佐賀県同窓会学術講演会



古野会長の挨拶

佐賀県同窓会は昭和55年に発足し、本年30周年を迎えました。

現在は4代目会長の古野宏先生(5期)を中心に88名の同窓生で活動しております。

佐賀県は県歯科医師会会長に寺尾隆治先生(1期)、常務理事に松尾憲篤先生(3期)、寺尾弘隆先生(4期)、理事に重松秀樹先生(7期)が就任されており、また多くの同窓生が地区の会長、理事等の要職に就いておられるなど、我々同窓生が佐賀県の地域歯科医療の中心的存

在といっても過言ではありません。

平成21年度の佐賀県同窓会学術講演会は、1月23日佐賀市のホテルニューオータニ佐賀にて、本学成育小児歯科学分野 本川渉教授を講師として行われました。本川教授には3月に定年をお迎えになられる大変ご多忙な時期にもかかわらず、快く講師をお引き受けいただきました。

講演では、大学の現況の説明からはじまり、本学小児歯科発足当初のいわゆる「虫歯の洪水」の時期や予約2年待ちの時期、母親教室の重要性などの話から、最新の咬合誘導の技術、予防の重要性の話、国内外の大学との交流、現在の小児歯科医療の問題点などを多くのスライドを使ってお話いただき、長年小児歯科の発展にたずさわった本川教授の集大成ともいえるご講演でした。

先生には佐賀県人会の顧問としても長年お世話していただいております。今回はご退職前の最後の講演とあって多くの同窓生が出席し、先生

の貴重な講演を聴講しておられました。

最後になりましたが、本川教授には長年にわたり佐賀県同窓会、ならびに佐賀県人会のために多大なるご尽力いただきましてまことにありがとうございます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。これからの本川教授のご健康とご多幸をお祈り致します。

本年10月九地連同窓会を佐賀県嬉野温泉にて行います。多くの同窓生のみなさんのご来県をお待ち致しております。

酒井正男(14期)



本川教授の挨拶

同窓会通信 「学内同窓会は今」

現在(平成22年3月1日時点)学内同窓生は、大学の教授1名、大学准教授3名、講師12名、助教38名、短大の教授3名、准教授3名が教員として学生の指導に当たっています。その他、医員や大学院生、専攻生および研修歯科医師を含めると、総勢で180名以上となります。それぞれの同窓生が各専門分野で後輩の指導や自身の研修に励んでいます。私が、前会長より学内同窓会長を受け継いで4年になります。その間、歯科界は激変しました。大学においても浮足立つ者が多く、腰を据えて勉強していこうとする者が減少しています。しかし、このような時代にこそ、将来に生き残るための歯科医学や口腔医学に関するしっかりとした考え方や深い知識が必要と考えています。本学では、昨年度より口腔保健学の埴岡教授を中心とした学生支援プログラムが始まりました。これは、本学の学生さんに、一般の歯科診療所や口腔医学を実践している病院を臨地体験させ、将来に対する高いモチベーションを持たせようという試みです。このプログラムには、同

窓会の先生方に全面的な協力をお願いしています。昨日、臨床実習生を引率して2つの施設を訪問しました。両施設ともに、院長のお人柄がにじみ出た素晴らしい診療所でした。この施設の先生は、お二人とも大学で10年近く研修を積み学位をお持ちの先生で、診療所のポリシーや地域医療への貢献に対する高いモチベーションには驚かされました。学生さんには、大学病院では見ることのできない生の診療所の姿を見せる機会を与えることが出来ましたし、将来の目標を高くもたせることもできました。6年間の学生生活は、卒業と国家試験合格に多くのエネルギーを使われますが、卒業後は、歯科医師としての将来を決める大事な時期です。ご父兄の皆さんにはご子息の将来のためにも、ぜひ、大学院への進学や専門性の高い講座や分野への進路をお勧めします。

学内同窓会長 尾崎正雄(3期)

卒業生トーク

「行くに徑に由らず」 寺谷 烈(18期)



若葉の候、学部には新1年生が、病院には研修医が、それぞれの第一歩を歩んでいる頃だと思います。おめでとうございます。

皆様、こんにちは。平成8年卒業の寺谷と申します。私は昨年、学生時代も含めて18年間お世話になった母校を退職し、勤務医として約1年経ちました。今までの人生の半分は、福岡歯科大学が占めています。

私は、学生時代にサッカー部に所属し、グラウンドでチームワークの大切さと勝負の厳しさを学びました。卒業後、福岡歯科大学歯科矯正学講座(現 成長発達歯学講座矯正歯科学分野)に入局し、石川博之教授のご指導のもと、大学院、医員、助手、(助教)として臨床、教育、研究に携わらせてもらいました。大学院時代は、伊東隆三元助教授、伊藤秀美元准教授(東北大学)、石川博之教授のご指導により、矯正装置を用いて生体内に発生する力学的挙動をバイオメカニクス観点から観察、評価する生体力学研究をさせていただきました。この研究から矯正歯科学に興味を持ち一つの道を続けていくことを決意しました。職員と

なり、歯学生の教育、後輩先生の育成指導やサッカー部のコーチなど、人様に物事を教える難しさを痛感しました。また、数回の学会運営、同窓会、同門会、OB会、県人会、グリークラブなどの人と人とのつながりが重要になる仕事も経験し、成功に終わった時の喜びも感じる事ができました。それらの一つ一つが財産と思っております。そして、ふと先日、大学勤務時代の患者様からメールをいただきました。『先生、元気?矯正治療を受けてからたくさん笑えて、ご飯たくさん食べてます。ありがとうございます。』何よりも嬉しく感じました。今、私は矯正専門医の下田哲也院長(12期)のもと舌側矯正やマウスピース矯正治療を勉強させてもらっています。今後も、福岡歯科大学で得たものを活かして、矯正歯科治療をまっとうして行くつもりです。

本稿をもちまして、石川博之教授はじめ矯正歯科学分野の皆さん、サッカー部、佐賀県人会、グリークラブの皆さん、福岡歯科大学関係各位の皆様方に、本当に感謝申し上げます。



症例ミーティング

はやくも6年が経ちました



みなさんこんにちは。大分県宇佐市で開業している17期生の岩男祥宏といいます。

暖かくなり、過ごしやすい季節となつてまいりましたが、同窓生の皆さんにおかれましてはますますご繁栄のこととお喜び申し上げます。

大分県は福岡県の隣ということもあり、県内には多くの同窓生がいらっしゃいますが、他校出身の先生方にうらやましがられる程仲がよく、そして皆さんいろんな場面で頑張っている感じがします。そのおかげで私も何事があるたびに先輩方にご助言ご助力をいただいております。いつもお世話になっている同窓生の皆様にはこの場をかりて厚くお礼を申し上げます。

大分県宇佐市といえば、全国の八幡宮の総本宮である宇佐神宮があり、お正月になれば全国から参拝者が訪れ、普段は静かな町もこのときばかりは人があふれます。また、昭和の大横綱双葉山生誕の地ということもあり相撲が盛んで、毎年春には全国大学選抜相撲宇佐大会、秋には選抜高校相撲宇佐大会が行われます。

私とはいいまして、ここ宇佐市で開業して6年が経とうとしており、リピーターとして再度来院してくださる患者さんも徐々に増えてまいりました。そういった患者さんを裏切らない為にどう努力していくべきか試行錯誤を繰り返しているところです。その為、スタッフには苦勞をかけてしまいますが、今後も医院と自分の成長が続くよう努力をしていこうと思っております。

最後になりましたが、福岡歯科大学の今後のますますの発展をお祈り申し上げます。そして、同窓生の皆様方今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

いわお歯科(大分県宇佐市)
 岩男 祥宏(17期)

写真上=医院外観
 写真下=筆者(中央)とスタッフ



出会いに感謝



同窓生の皆様はじめまして。福岡県糸島市で開業しております25期生の竹田茂樹と申します。糸島市は今年1月1日より前原市、二丈町、志摩町の合併により新しく誕生した町です。母校のある福岡市に隣接し、都心からも地下鉄を使えば30分圏内と交通の便も大変よく、最近では近くに九州大学が移転してきたため、人口が増え、色々なお店が次々にできてきて大変賑わっています。又豊かな自然に囲まれ、おいしい食材、特に冬限定ではありますが、カキ小屋の焼ガキは身が大きく、味も濃厚で格別です。そして糸島の人々は、人情にあふれ、温かな人が多く、まだ開業して1年にも満たないのですが、大変魅力的なこの町に永住してみたいという気持ちさえあります。

早、福岡歯科大学を卒業して7年目に突入しますが、患者さんを満足させるだけの歯科医療ができていないことに、日々悩みなんとかしようと、講習会、研修会に参加したり、諸先輩の先生方に症例を相談したりと、診療においては悪戦苦闘しておりました。少しずつですが患者さんが、喜んでくれると本当に歯科医療に携われてよかったと、そして一生勉強は必要なんだと実感する毎日です。そして勉強をすることで様々な先生方との出会いがあるのが大きな醍醐味です。研修会などには本当にかなり勉強され、また研究され、色々な知識や考え方を持った多くの先生方がおられ、そういう先生方と接するのは自分にとって非常に多くの刺激を受けます。私の父も福岡市博多区で開業しているのですが、西洋医学とは少し違う歯科東洋医学を臨床に応用し、日々の患者さんの治療にあたっています。時々講習会に参加したり、話を聞くことがあるのですが、本当に難しくして大変興味深いことばかりです。

今後、糸島の地において、諸先生方と共に地域医療に少しでも貢献し、地域の人々から十分な評価を受けられるように努力してまいりたいと思っております。

たけだ歯科クリニック(福岡県糸島市)
 竹田 茂樹(25期)

写真上=医院外観
 写真下=筆者(前列右)とスタッフ



保護者からのメッセージ FROM PARENTS



野村 健一郎

(福岡歯科大学)

「父からのメッセージ」

今春、末の娘が卒業した。二人の姉も本学出身なので足かけ14年お世話になった次第、ご指導いただいた先生方にこの紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

その三人の保護者ということで原稿を依頼されたのであるが、文才のない私が引き受けたのはその時父の事を書いてみればと思ったからである。

先日ある新聞に“生きがいとは感動することでありそしてそれを伝えるために書くという役割は大きい”という趣旨の記事があり共感するところがあった。そして父からそれに近いものを受けたように思う。父正美は歯科医であったがアララギ会会員でもあり歌集や会誌に歌が残っている。そこで私が印象に残っている二首を紹介することで与えられたメッセージの責を果たすことにしたい。

「授業やめて赤彦歌集語りくれし 英語教師伊地知先生」

中学の授業の時に涙を流しながら歌人島木赤彦の歌を解説された先生のことを“関係のない英語の時間にだよ”とよく話してくれた。自分の感銘を伝えたい一心のことであろうが結果として生徒達に強い印象を残した。この光景を想像すると心が打たれる。

「命保ちて還り来しより四十五年舞鶴棧橋の波を忘れず」

七年前八十九歳で他界した父は晩年院長室の壁にこの歌を書き留めていた。シベリア抑留から帰りついた京都舞鶴港でのことを思い出して詠んだものであり、透析が始まり死を意識し始めたであろう父の心情を思うと感慨深い。

私達の親の世代の悲惨な戦争の犠牲があつて今がある。それを忘れず平和な社会を残してもらったことに感謝し命の尊さを伝えていく事が、何かおかしい昨今の世相にあって大切だと思うのである。

「この歳で親を頼んで春の雨」健一郎 (58歳)



山田 文隆

(福岡歯科大学)

「父&母の役割」

1年間の短さをつくづく感じるこの頃です。さらに体力、記憶力低下も感じるのは私だけでしょうか。あるTV番組のコメンテーターが話すには、加齢と共に体験する情報量及び感動量等の変化が一つの原因である。つまり幼児期から得る夢・希望も、成人になるにつれ減少傾向となり、行動の先読みを繰り返してしまうからだとか。人生折り返し点を過ぎた今ゆっくり歩みたいと願いつつ、日々精一杯の診療を頑張っております。

さて年1回各地区で開催される父兄懇談会ですが、夫婦そろって毎回出席して参りました。1学年としての初参加では、高学年のご父兄のお顔に最終学年に近づいたという事からでしょうか、不安感の中にも生き生きとされた様子を羨ましさを感じたものです。同学年のご父兄とはこれから長く続くであろう緊張の日々についてお話した事も、気付けば今夏で6回目の参加となります。

まさに「光陰矢の如し」です。

大学からの状況報告は非常に懇切丁寧であり、刻々と厳しく変化する国家試験情報は親としての心構えをも高める事となります。さらに懇親会では学年別の情報交換も大きな収穫となります。教育とは父母にとって本当に大変な仕事であり役割(天職)です。イギリスの劇作家バーナード・ショウが「子育ては一大事業で有る。しかし、未だかつて、その適正検査が行われたことはない」と語っています。誰もが親である限り、常に不安やあせりの中で子供の成長を願っているはず。支部によっては父兄懇談会出席率に差があるようです。まだ一度も出席されたことのないご父兄が居られましたら是非に参加をお勧めしますと共に、お忙しい貴重な時間の中、私共の代表として全国各地に出向かれる父兄会役員皆様の御尽力に、心より感謝致します。

短大歯科衛生学科 登院式

福岡医療短期大学歯科衛生学科の平成22年度登院式が、4月13日、福岡歯科大学講堂で執り行われました。同学科第3学年80人は一人ひとり壇上に上がり、緊張した面持ちで短大長から戴帽を受けました。



福岡歯科大学 父兄後援会会長改選

3月6日に開催された福岡歯科大学父兄後援会理事会・評議員会合同会議において、会長の改選が行われ、第17代会長として日高英治氏が選任されました。



日高 英治氏

短大父兄後援会 会長改選

4月7日、福岡医療短期大学の父兄後援会総会において、歯科衛生学科父兄後援会会長に古市哲氏が選任され、保健福祉学科父兄後援会会長に勝矢記奴子氏が選任されました。

歯科衛生学科
古市 哲氏保健福祉学科
勝矢 記奴子氏

病院長・情報図書館長決定

2月19日に開催された第423回理事会において、大学運営の中核を担う医科歯科総合病院長ならびに情報図書館長が決定しました。

任期は、病院長、情報図書館長ともに平成22年4月1日から平成23年3月31日までです。

医科歯科総合病院長
松浦 正朗
口腔インプラント学分野・教授情報図書館長
中島 與志行
内科学分野・教授

短大歯科衛生学科長の選任

福岡医療短期大学歯科衛生学科長に升井一郎教授が選任されました。なお、任期は平成22年4月1日～平成24年3月31日までです。



升井一郎歯科衛生学科長

新任客員教授・准教授

- ・内藤 正俊 客員教授
福岡大学病院院長
専門:整形外科学
- ・水口 清 客員教授
東京歯科大学法歯学講座主任教授
専門:法歯学
- ・西間 三馨 客員教授
国立病院機構福岡病院名誉院長
専門:小児科
- ・宮本 新吾 客員教授
福岡大学医学部産婦人科学教室主任教授
専門:産科婦人科
- ・久保 真一 客員教授
福岡大学医学部教授
専門:法医学
- ・師井 洋一 客員准教授
九州大学大学院医学研究院准教授
専門:皮膚科
- ・奥田 貴介 客員准教授
奥田・二子石法律事務所勤務
専門:法学



辞令交付式にて

臨床教授・准教授

- ・上田 秀朗 臨床教授
うえだ歯科医院 院長
- ・船越 栄次 臨床教授
九州大学歯学部臨床教授
- ・中 四良 臨床教授
中歯科医院 院長
- ・小柳 進祐 臨床教授
小柳歯科医院 副院長
- ・添島 正和 臨床教授
添島歯科クリニック 院長
- ・下田 恒久 臨床教授
医療法人マテリアライズ
中央歯科・口腔外科クリニック
理事長
- ・林 升 臨床教授
宮崎県歯科技術専門学校
兼任講師
- ・住吉 周平 臨床教授
スミヨシ歯科口腔外科
こども歯科 院長
- ・荒川 周幸 臨床教授
あらかわ歯科・矯正歯科
クリニック 院長
- ・橋本 敏昭 臨床教授
はしもと小児歯科医院 院長
- ・久芳 陽一 臨床教授
くば小児歯科医院 院長
- ・石井 香 臨床教授
いしいかおり小児歯科 院長
- ・田畑 修 臨床教授
田畑歯科医院 院長
九州大学臨床教授
- ・山田 潤一 臨床准教授
福岡天神インプラントクリニック
院長
- ・吉永 修 臨床准教授
吉永歯科医院 院長



辞令交付式にて

新任・昇任教員紹介

福岡歯科大学
福岡医療短期大学



はた やすあき
畑 快右 教授 眼科学分野

略歴 九州大学医学部卒。同大学院医学系研究科修了。米国ジョスリン糖尿病センター研究員、九州大学大学院医学研究院助手、講師、准教授を経て、平成22年4月1日福岡歯科大学教授に就任。博士(医学)。福岡県出身。

抱負 糖尿病患者さんのQOLを著しく低下させる合併症の一つである糖尿病網膜症をはじめ、種々の網膜硝子体疾患の病態解明ならびに新規治療法開発に取り組んでいます。網膜の機能は一旦障害されると回復させるのが困難です。患者さんの生涯にわたる良好な視力維持に貢献できるよう研究・教育・診療に努めて参ります。



しのはら てつお
篠原 徹雄 教授 外科学分野

略歴 福岡大学医学部卒。同大学院医学研究科博士課程修了。福岡大学消化器外科助手、講師を経て、平成22年4月1日福岡歯科大学教授に就任。博士(医学)。長崎県出身。

抱負 消化器を中心に乳腺、甲状腺などの疾患の診断・治療を通じて、早い段階から臨床での歯科医学に接し、モチベーションを高め、今の医療環境に対応できる人的、高い資質を有する歯科医師・医師の育成を目指します。



ひのなか てつろう
稲井 哲一郎 教授 機能構造学分野

略歴 九州大学歯学部卒。同大学院歯学研究科博士課程修了。同大学歯学部保存科医員。九州大学医学部助手、講師。米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)留学。九州大学医学部助教授、准教授を経て平成22年4月1日福岡歯科大学教授就任。歯学博士。愛媛県出身。

抱負 口腔医学に基づき、口腔全体を一臓器として診ることができる口腔医を育てる解剖学教育を目指します。研究は、タイト結合の形態と機能の制御機構を調べ、痛との関連を探りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



ひさなが ゆたか
久永 豊 准教授 矯正歯科学分野

略歴 福岡歯科大学歯学部歯学科卒。同大学大学院歯学研究科歯学専攻博士課程修了。福岡歯科大学助手、講師を経て平成22年3月1日同大学准教授に就任。博士(歯学)。山口県出身。

抱負 母校福岡歯科大学の発展に貢献していきたい。諸先輩方、同級生、そして後輩達が誇れる大学づくりがしたい。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



もろとも たかひこ
諸富 孝彦 講師 歯科保存学分野

略歴 九州歯科大学歯学部卒。同大学大学院歯学研究科博士課程修了。九州歯科大学助手、助教を経て、平成22年3月1日福岡歯科大学講師就任。博士(歯学)。福岡県出身。

抱負 歯科保存治療は早期の歯科治療介入となり、その後の歯の寿命に大きく影響します。本学建学の精神に基づき、エビデンスに基づいた高度な専門性を有する歯科保存治療の提供と口腔医学の発展に貢献できますよう、一層努力致します。



こうの しろう
河野 修三 講師 外科学分野

略歴 福岡大学医学部卒。同大学大学院研究科博士課程修了。これまで国立病院機構九州医療センターを始め、消化器癌を取り扱う病院を経て、平成22年4月1日福岡歯科大学講師に就任。博士(医学)。大分県出身。

抱負 消化器癌はわが国の癌の半数以上を占め中でも胃癌・大腸癌は最も多く、世界的にも頻度の高い癌です。そのような消化器癌のみならず、胆石、ヘルニアなど良性疾病も含めた診療、臨床研究、そして基礎医学を通じての学生育成に努めます。



かわぐち みの
川口 稔 講師 材料工学分野

略歴 島根大学文学部卒。福岡歯科大学助手、助教を経て、平成22年4月1日同大学講師に就任。歯学博士。福岡県出身。

抱負 物理学は医療工学を経て歯科理工学、生体材料学へとつながる分野です。これまで本学で培った経験を最大限に活かし、きめ細かな教育と研究の活性化に貢献できるように努力いたします。



すえまつ みほこ
末松 美保子 准教授 保健福祉科学

略歴 国立福岡中央病院附属看護学校卒。同病院病棟。福岡大学(二部)卒。川浪病院(現福西会病院)病棟、訪問看護、さわら老健センター介護部長、川浪リハビリテーション病院(現福西会南病院)看護部長を経て、平成17年3月より福岡医療短期大学講師。平成22年4月1日同大学准教授に就任。

抱負 高齢社会において、専門的知識と技術を持った介護福祉士の役割は重要であり、期待は大きいと思います。これまでの臨床経験を活かし、職業人としての高い倫理観を持った、他職種と協働できる介護福祉士の教育に努めたいと思います。



ごとう かずこ
後藤 加寿子 准教授 歯科衛生学科

略歴 福岡歯科大学卒。九州大学大学院歯学府博士課程修了。福岡歯科大学咬合修復学講座助教。平成22年4月1日福岡医療短期大学准教授に就任。博士(歯学)。福岡県出身。

抱負 本学園の優れた特色を活かしながら、これまでの歯科補綴学の臨床と研究、教育の経験を活かし、歯科医療チームの一員として信頼される歯科衛生士の育成に努力したいと思います。



きしま さとこ
貴島 聡子 講師 歯科衛生学科

略歴 福岡医療短期大学歯科衛生学科卒。福岡歯科大学歯学部卒。福岡医療短期大学助教を経て、平成22年4月1日同大学講師に就任。鹿児島県出身。

抱負 4月より新たに保存修復学講義の担当となり、講義・実習の充実に努め、国家試験100%合格を維持できるよう自分自身も一緒に努力し、また短大の素晴らしい教育環境の中で、後輩達に歯科衛生士の魅力を伝えていけたらと考えております。

【平成23年度入学試験】

福岡歯科大学

【福岡歯科大学AO (Admissions Office方式) 入学試験】

本学のAO入学試験制度は、歯科医学を学び、歯科医師を目指す意志が明確で、次代の歯科医学をリードできる、若く、有能な人材を広く全国から募集する制度です。
また、AO入学試験合格者のうち、入学試験成績上位3名の者に対して、入学初年度から卒業までの6年間学術奨励金を支給します。(但し、2年次以降は継続条件有)

募集人員	出願受付期間	試験日	合格発表日
約30名	H22年8月 2日(月) H22年8月26日(木)	H22年8月30日(月)	一次:H22年 9月1日(水) 二次:H22年10月6日(水)

※詳細は福岡歯科大学学務課入試係(TEL.092-801-1885)までお問合せください。

歯学部					大学院 歯学研究科	
区 分	推薦・指定校推薦入試日程	一般入試A日程	センター試験利用入試	一般入試B日程	一次募集	二次募集
募集人員	約25名	約30名	約6名	約5名	18名	
出願受付期間	H22.10.20(水)～11.2(火)	H23.1.4(火)～1.28(金)		H23.1.24(月)～2.17(木)	H22.7.26(月)～8.13(金)	H23.1.24(月)～2.10(木)
試験日	11月3日(水)	2月2日(水)		2月21日(月)	8月19日(木)	2月17日(木)
合格発表日	11月5日(金)	2月4日(金)		2月23日(水)	9月2日(木)	3月1日(火)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp					

福岡医療短期大学

歯科衛生学科									専攻科・口腔保健衛生学専攻		
区 分	指定校推薦入試	公募推薦入試(Ⅰ)	公募推薦入試(Ⅱ)	一般入試A日程 (社会人を含む)	一般入試B日程 (社会人を含む)	一般入試C日程 (社会人を含む)	一般入試D日程 (社会人を含む)	AO入試 (社会人を含む)	一次募集	二次募集	三次募集
募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約15名	約5名	若干名
出願受付期間	H22.11.1(月)～ 11.11(木)	H22.11.1(月)～ 11.11(木)	H22.12.1(水)～ 12.9(木)	H23.1.4(火)～ 1.28(金)	H23.2.2(水)～ 2.16(水)	H23.2.21(月)～ 3.9(水)	H23.3.14(月)～ 3.25(金)	詳細は入試係まで お問い合わせ ください。	H22.11.17(水)～ 12.8(水)	H23.1.4(火)～ 1.12(水)	H23.3.22(火)～ 3.28(月)
試験日	11月13日(土)	11月13日(土)	12月11日(土)	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)		12月11日(土)	1月15日(土)	3月29日(火)
合格発表日	11月19日(金)	11月19日(金)	12月16日(木)	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)		12月16日(木)	1月21日(金)	3月30日(水)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/ ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp										

保健福祉学科								
区 分	指定校推薦入試	公募推薦入試（Ⅰ）	公募推薦入試（Ⅱ）	一般入試A日程 （社会人を含む）	一般入試B日程 （社会人を含む）	一般入試C日程 （社会人を含む）	一般入試D日程 （社会人を含む）	AO入試 （社会人を含む）
募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
出願受付期間	H22.11.1(月)～11.11(木)	H22.11.1(月)～11.11(木)	H22.12.1(水)～12.9(木)	H23.1.4(火)～1.28(金)	H23.2.2(水)～2.16(水)	H23.2.21(月)～3.9(水)	H23.3.14(月)～3.25(金)	詳細は入試係まで お問い合わせください。
試験日	11月13日(土)	11月13日(土)	12月11日(土)	2月1日(火)	2月18日(金)	3月11日(金)	3月29日(火)	
合格発表日	11月19日(金)	11月19日(金)	12月16日(木)	2月4日(金)	2月25日(金)	3月15日(火)	3月30日(水)	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/ ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp							

福岡歯科大学同窓生対象オープンキャンパス・入試説明会開催

同窓生のご子弟を対象に福岡歯科大学のオープンキャンパス・入試説明会が下記の通り開催されます。
当日は本学在職の同窓生との昼食会も企画しております。同窓生の皆様、ふるってご参加ください。

【日 時】5月30日(日) 10:30～14:00

【場 所】福岡歯科大学

【集合場所】本館9階901教室

【内 容】

- ・施設見学・模擬実習・本学在職の同窓生及び出席教員との昼食会
- ・大学概要説明・入学試験説明等

<問い合わせ>

福岡歯科大学 学務課 入試係

TEL:092-801-1885

E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp

オープンキャンパス

開催校	実施日
福岡歯科大学	8月1日(日)・8月22日(日)
福岡医療短期大学	5月期 5月15日(土)・23日(日)
	6月期 6月12日(土)・20日(日)
	7月期 7月11日(日)・24日(土)
	8月期 8月 6日(金)・21日(土)
	9月期 9月11日(土)・26日(日)

入学希望者をはじめ、ご家族や高校・予備校の先生方を対象に福岡歯科大学、福岡医療短期大学において平成22年度オープンキャンパスが左記の日程で行われます。お問い合わせの上、お気軽にご参加下さい。(問い合わせは各入試係まで)



福岡歯科大学:模擬実習



短大歯科衛生学科:歯磨き体験